琉球大学学術リポジトリ

[資料] 宮古島市大神島島民の観光に対する意識調査

メタデータ	言語:
	出版者: 沖縄地理学会
	公開日: 2018-11-16
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 堀本, 雅章
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017720

沖縄地理　第 13 号
79-84 頁　　(2013)

Okinawa Journal of Geographical Studies
No.13, p.79-84　　(2013)

宮古島市大神島島民の観光に対する意識調査

堀 本 雅 章
(法政大学沖縄文化研究所)

Ⅰ　はじめに

沖縄県宮古島市大神島は，宮古島の北約 4 ㎞に位置する人口 30 人弱の島である（図 1）．島民の 55％以上が 80 歳以上で，島で唯一の大神集落は典型的な限界集落である．民家の多くは，港から急な坂道を数分登ったところにある．集落には，診療所，消防署，郵便局はない．学校も 2008 年度から休校となり，実質的には島の行事やデイサービスの会場になっている大神島離島コミュニティーセンターが唯一の公的施設と言える．集落から坂道と階段を上ると，島の最高峰に位置する遠見台があり，宮古島や池間島が一望できる（図 2）．また，島内には多くの御嶽や拝所があり，立ち入り禁止地域が多い．

筆者が別のテーマで，大神島の調査を開始した 2008 年夏から 2009 年当時，既に大神小中学校は休校になっていた．学校への通勤のための利用者や訪問者はおらず，観光客の利用もほとんどみられず，乗船客は筆者だけのこともあった．しかし，改めて大神島を訪れた 2012 年 8 月には，小さな子どもを連れた家族連れなどの日帰り観光客の姿を目にし，2009 年以降は，入域観光客数が増加を続けている．

高齢者がほとんどの島で，名所旧跡が少なく宿泊施設や食堂などはなく，観光客の受け入れ態勢が十分とは言えない．観光客を引き付けるためには，受け入れ態勢の整備が必要なことは言うまでもないが，同時に名所旧跡や，豊かな自然，名産，レジャー施設など魅力的な観光資源が必要である．大神島の場合，豊かな自然と美しい景観が観光資源の一つと言える．

大神島では，島の歴史や景観，伝統，文化などを 3 人の島内ガイドが廉価で案内しており，異なる文化の理解に貢献していると言える[1)]．高齢者がほとんどの大神島の場合，積極的な観光地化への取り組みは少なく，新しいタイプの観光である農作業や漁業体験ができるグリーンツーリズムやブルーツーリズムまでには至っていないが，旅行会社から送り込まれた観光客に対し，島民ガイドによる島内案内やシュノーケリングツアーが行われている．

このようにあまり観光地化されていない大神島において，全島民を対象として大神島の入域観光客数の増加に対する賛否およびその理由，大神島の観光についてどのように考えているのか，意識調査を行った．その結果を報告する．

Ⅱ　意識調査の方法と回答者の属性

1．調査方法と質問項目

意識調査は，大神島民全員を対象とし，2012 年 8 月に対面調査により実施した．調査時に 16 世帯 29 人が在島し，療養中の 2 人を除く 27 人から回答を得た（有効回答率 93％）．筆者は，近年帰島した若干名の島民を除いてほとんど顔見知りで，今回の調査は大神島に関することについてお教え願いたい旨の依頼を行った．

最初に，観光に関する話をせず，「大神島に今必要なものは何でしょうか．それとも今のままでよいでしょうか.」の質問を行い，大神島民が観光地化に意識が向いているのか，それとも，もっと他に必要なものがあるのかについて，島民意識を分析することとした．先に，観光に関する質問を行うとバイアスがかかるため，この質問を最初に行い自由回答とした．また，全て対面調査を行ったため，質問項目全体に目を通してから回答することはない．次に，「大神島の今後の観光客数はどのようになればよいと思いますか.」という質問を行

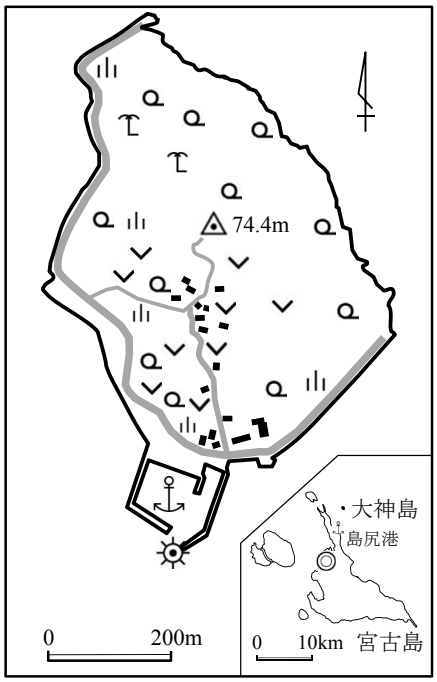

図 1　研究対象地域

い，その回答として，「観光客は増加した方がよい」，「今より少し増加した方がよい」，「今くらいがよい」，「観光客は減った方がよい」，「観光客はいない方がよい」の選択肢から選んでもらった．また，その理由については自由回答とした．最後に，「大神島の観光について，どう思われますか．何か考えがありますか．」の質問を行い，自由回答とした．なお，調査の結果は個人が特定されないように集計・分析する旨を調査対象者に事前に伝えた．

2. 回答者の属性と属性グループ

回答者の年代は，40 歳代 1 人，50 歳代 3 人，60 歳代 4 人，70 歳代 3 人，80 歳以上 16 人，性別は男性 13 人，女性 14 人である．回答者の職業は，無職（年金）が 27 人中 20 人，残る 7 人は，漁業，水産加工業兼漁業，会社員（船会社である大神海運勤務）各 2 人，雑貨店経営 1 人である．大神島での通算居住期間（以下，居住期間とする）は，27 人中 80 年以上が 14 人，その他の島民も全て居住期間 15 年以上である．高齢者が多く，27 人中 19 人が生まれてからずっと大神島で暮らしており，居住期間が極めて長い人が多い．なお，島外で居住歴のある人も全て大神島の生まれである．島外の主な居住地は宮古島 4 人，池間島 1 人，沖縄島（沖縄本島）5 人，県外 2 人，南方海洋（船員）1 人である（複数回答有）．

図 2　島の最高峰から見た大神集落
（筆者撮影）．

属性による比較は，全員が大神島出身で居住期間が長く，ほとんどが高齢者であるため，出身地や居住期間，年齢により二分することは不可能または困難である．男性 13 人，女性 14 人から回答があり，唯一性別による差異について比較することとした．

Ⅲ　大神島の入域観光客数の推移

大神島の入域観光客数は 2000 年度に 11,394 人であった．その後増加傾向にあり，2007 年度には約 1.63 倍の 18,596 人まで増加している（図 3）．しかし，翌 2008 年度には 14,484 人まで激減している．これはその年度から学校が休校になり，教職員の宮古島からの通勤での利用，運動会などの学校行事への島外からの参加者や，業務で学校を訪問する人もいなくなったことが要因と考えられる[2)]．しかし，2009 年度以降再び入域観光客数が増加に転じ 2010 年度は 16,174 人，2011 年度は 19,474 人となった．

その背景には，観光会社からオプショナルツアーで客が送り込まれて来ること，廉価で島の観光案内を行う複数のガイドがおり，受け入れ態勢のソフト面の整備がいくらか行われたことがあげられる．さらに，人口 30 人程度の島であるが定期船が安定して運航（夏季は日に 5 往復，冬季は 4 往復）され，かつ欠航が少ないこと，乗船時間は片道約 15 分，船賃は往復 670 円で容易に大神島へ行くこ

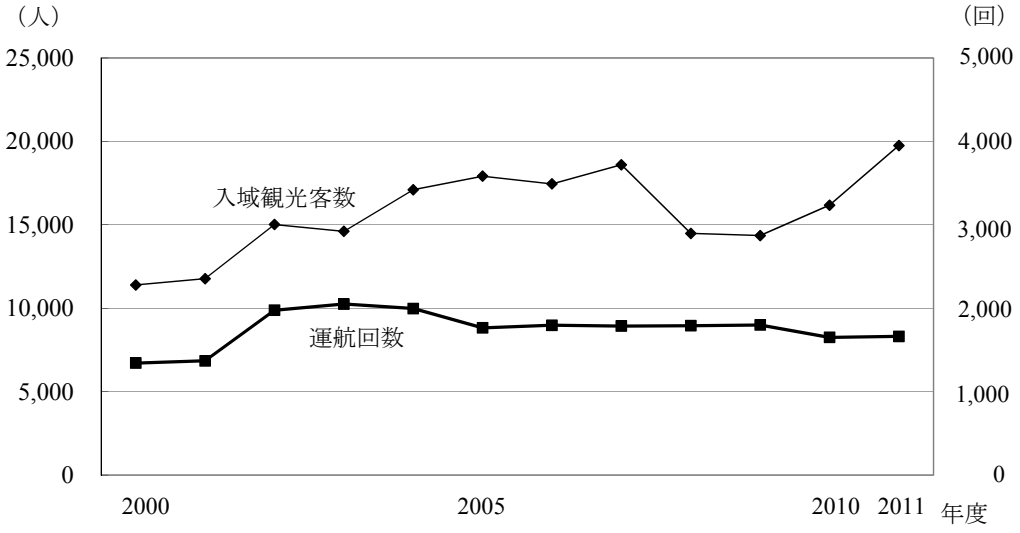

図 3　大神島への入域観光客者数と運航回数
（運輸要覧各年度に基づき作成）.

とができることも一要因と考えられる.

しかし，船便は観光客が増加する以前から運航され，近年特に交通網が整備された訳ではない. 観光会社からの受け入れや，島内ガイドの増加などはあるが，それだけが観光客の増加した要因とは断定できない. 入域観光客数が増加した大きな要因として，かつてのマスツーリズムから近年のツーリズムの多様化にみられるように志向性の変化が一要因と思われる. その一つとして何もない土地への憧れや，新たな観光形態が生み出されている. 堀本（2013）は，沖縄県竹富町鳩間島は，青い海と空，豊かな自然以外に，名所旧跡が少ない島であるが，何もなくのんびりと過ごすことができるため，この数年間で数十倍にまで入域観光客数が増えたと指摘している. 実際，大神島の場合も特に名所旧跡は少ないが，のんびりとできる場所を求めて，また，小さな子どもの海遊びのために来島する者が増えつつあると指摘する島民もいる.

Ⅳ　意識調査の結果

前章でみたとおり，大神島は 2000 年代に入り緩やかに入域観光客数が増加している. このような観光客の増加傾向および島の観光地化について，島民はどのように考えているのであろうか. 27 人から回答をいただいた意識調査の結果を報告する.

1）質問 1「大神島に今必要なものは何でしょうか. それとも今のままでよいでしょうか.」

大神島の観光に関する質問を行う前に，「大神島に今必要なものは何でしょうか. それとも今のままでよいでしょうか.」の質問を行った（複数回答有）. その結果，直接観光と関わる回答として，「観光客の増加」，「宿泊施設」，「飲食店兼品揃え豊富な雑貨店」が各 2 回答みられる（表 1）. 2013 年度の開店を目指して，飲食店兼品揃え豊富な雑貨店の開業が計画されている.

さらに「施設」が 3 回答でその内訳は,「レジャー施設」，「老人施設」，「色々な施設」が各 1 回答である. その他に，「仕事」，「インターネットに掲載して大神島を知ってもらう」，「学校の再開」，「港にあるトイレの数の増加」，「人のつながり」，「住みやすい大神島になるように」，「若い者がやりやすいように任せる」が各 1 回答である. これらの中で特に「レジャー施設」および「港にあるトイレの数の増加」は，観光地化とも関連がある. 上記の他に，「バスのダイヤ改正・港まで延伸」が 5 回答で最も多く，内訳は，「徒歩数分の距離があり，高齢者が多いため，港までバス路線の延伸を希望」が 3 回答，また，「船と連係したバスのダイヤ改正」が 2 回答ある. これらが改善されると島民にとって利便性が向上されるだけでなく，入域観光客数

表 1　質問 1「大神島に今必要なものは何でしょうか．それとも今のままでよいでしょうか.」

	バスのダイヤ改正・港まで延伸	定年退職者の帰島	カートの台数の増加	施　設	観光客の増加	宿泊施設	飲食店兼品揃え豊富な売店	その他	今のままでよい	分からない	計
男　性	3	1	1	1	2	2	1	4	3	2	20
女　性	2	2	2	2	0	0	1	3	2	3	17
計	5	3	3	3	2	2	2	7	5	5	37

（筆者調査に基づき作成）.

図 4　島民の足カート
（筆者撮影）.

の増加にもつながる可能性はある．さらに，島内には自動車はなく，ゴルフ場で使われていたカートがある（図 4）．多くの民家は急な坂道を徒歩数分登った所にあるため，現在 1 台しかない「カートの台数の増加」が 3 回答で，港と集落の間を高齢者および荷物を無償で運ぶために，島民がボランティアで運転している．その他にも観光客へカートの貸し出しができないか考えている者もいる．ただし，安全面，必要性などから具体的に提案されている訳ではない．

さらに，「定年退職者の帰島」が 3 回答，「今のままでよい」，「分からない」が各 5 回答みられた．

なお，性別により比較すると，観光地化と関わる「観光客の増加」，「宿泊施設」，「飲食店兼品揃え豊富な雑貨店」計 6 回答中 5 回答が男性によるもので，その他には顕著な差異はみられなかった．

以上のことから，島民は，バスと船との接続や，わずかな距離ではあるがバス路線の港までの延伸などさらなる交通網の整備の他，直接観光に結びつく回答として観光客の増加，宿泊施設，飲食店兼品揃え豊富な売店の開業が複数回答有り，島民は観光地化を意識していることが分かった．

2）質問 2「大神島の今後の観光客数はどのようになればよいと思いますか.」

次に，「大神島の今後の観光客数はどのようになればよいと思いますか.」の質問を行った．その結果，「観光客は増加した方がよい」が 7 人，「今より少し増加した方がよい」が 9 人，「今くらいがよい」が 8 人,「観光客は減った方がよい」および「観光客はいない方がよい」が 0 人，「分からない」が 3 人という回答になった（回答者数 27 人）（表 2）．宿泊施設もなく，日帰り観光客が短時間島に滞在するだけの現状においては，観光客の増加に対してほとんどの人が肯定的で，「観光客は減った方がよい」および「観光客はいない方がよい」との回答は全くみられなかった．

ところで，筆者の鳩間島における同様の調査では，島外からの日帰りツアーが弁当持参で鳩間島を昼食休憩に利用することがあり，お金を落とさず，一部のツアー客ではあるがゴミを落としていく状態である．彼らを乗せた船を「弁当船」と言い，住民が苦慮している様子について，森口（2005）に詳しく記されている．また，大神島と異なり港の待合所以外には自由に使用できるトイレがなく，島民により自主運営されている公民館のトイレが無断借用されることがある[3]．

それに対し大神島の場合，島外から船で訪れる日帰りツアーの設定はなく，環境の悪化は考えにくい．滞在時間も短く，ゴミもあまり出ず，港の前と，島の東側の公園にトイレが完備され，現状では観光客の増加による環境の悪化はみられない．

表 2　質問 2「大神島の今後の観光客数はどのようになればよいと思いますか.」

	増　加	少し増加	今くらい	減　少	不　要	分からない	計
男　性	4	5	2	0	0	2	13
女　性	3	4	6	0	0	1	14
計	7	9	8	0	0	3	27

（筆者調査に基づき作成）.

表 3　質問 3「大神島の観光について，どう思われますか．何か考えがありますか.」

	ルールを守る・迷惑をかけなければ構わない	客層がよければ歓迎	観光客の増加は船の便数の維持・増加につながる	観光客が増えてにぎやかになればよい	豊かな自然を対象とした観光	島外者を居住させるのは困る	その他	計
男　性	5	1	1	1	1	1	6	16
女　性	6	1	1	1	1	1	2	13
計	11	2	2	2	2	2	8	29

（筆者調査に基づき作成）.

小さな子どもを連れた観光客は特に歓迎されている．廃校になり島に子どもがいなくなったことや，子ども連れの場合海遊びが中心で，聖域への侵入などの可能性が少なく，歓迎されている[4)].

性別により比較すると，「観光客は増加した方がよい」男性 4 人，女性 3 人，「今より少し増加した方がよい」男性 5 人，女性 4 人，「今くらいの観光客数がよい」男性 2 人，女性 6 人，「分からない」男性 2 人，女性 1 人で，女性の方が観光客の増加に消極的な傾向がみられる．これは，女性の中には神事を司る者がおり，男性より見知らぬ人の自由な来訪による聖域への立ち入りを懸念していることが一要因と考えられる．このことは，堀本（2011）の架橋の賛否に関する調査において，昼夜を問わず自由に来島できる架橋に賛成する女性は全くいなかったこととも関連していると思われる．このように，大神島の観光客の増減に関する島民意識は，性別による差異がみられることが分かった．

3）質問 3「大神島の観光について，どう思われますか．何か考えがありますか.」

最後に，「大神島の観光について，どう思われますか．何か考えがありますか.」の質問を自由回答で行った（複数回答有）．各回答を内容に則して集約した．その結果，最も多かった回答は「ルールを守る・迷惑をかけなければ構わない」の 11 回答であった（表 3）．特に，御嶽に入らないことが絶対条件である．

さらに，「客層がよければ歓迎」，「観光客の増加は船の便数の維持・増加につながる」，「観光客が増えてにぎやかになればよい」，「豊かな自然を対象とした観光」，「島外者を居住させるのは困る」が各 2 回，「カートの貸し出し」，「高齢者の送迎」，「ビーチ・遊泳水域の整備」，「観光案内」，「観光客が増えると神行事に影響する」，「観光地化して欲しくない」，「観光客が来ても島の発展はなくこのままなら無人島になる」，「大神島の将来について役所が考えて欲しい」が各 1 回答である．

性別により比較すると，絶対数が少なく，ほとんどの回答は 2 回答以下であり，最も回答の多かった「ルールを守る・迷惑をかけなければ構わない」が 11 回中男性 5 回答，女性 6 回答で差異はみられない．

一方，「観光客は減った方がよい」および「観光客はいない方がよい」との回答はみられなかったが，少ないながら，観光客の増加に肯定的でない意見がある．「観光客が増えると神行事に影響する」，「観光地化して欲しくない」が各 1 回答みられた．観光地化にいくらか関係する回答として「島

外者を居住させるのは困る」が 2 回答あげられ，その他にも，「観光客が来ても島の発展はなくこのままなら無人島になる」，「大神島の将来について役所が考えて欲しい」が各 1 回答みられた．

大神島における観光客数の増加については，条件付きながら肯定的な意見が多くみられたが，宿泊施設がないため，日帰りの滞在で，夜間見知らぬ人による御嶽への侵入や騒音などの心配はそれほど問題視されていない．現在，人口 30 人弱の大神島と宮古島との架橋計画はなく，離島であれば夜間見知らぬ人が自由に出入りすることはない．日帰り観光客の場合，対岸の港まで車で来る人は多いが，架橋されていないため , 往復の船賃を払って来島し，目的をもった（のんびりと過ごすこと，あるいは何もしないことも含めて）来訪であり，昼夜問わず車で来訪できる架橋された島と大きく異なる[5]．

V　おわりに

高齢者が大半の大神島では 65 歳くらいの人が若者と呼ばれ, 島民は彼らの帰島を望んでいる．現在，定年後帰島した若者により，食堂兼売店の建設計画がある．島の特産であるカーキダコ（タコの燻製），一時期港の前の仮店舗で販売されていたサザエの壺焼きや，地元産の魚を用いた料理の提供などにより，さらなる大神島への観光客の増加と観光客の満足度の増大につながると思われる．現在，飲食店 1 軒さえない大神島では，昼食が不要な時間帯の訪問か軽食持参で来島しているのが現状で，地元の食材を用いた飲食店の開店に期待を寄せるのは島民だけではない．その他に，島ラッキョ，ニンニクなど島の特産もある[6]．しかし，島民はそれほど問題視していないが観光地化することによって，ゴミ問題や騒音，火災，治安の悪化などが懸念される．

大神島の場合，観光業で主たる生計を立てている者はいないが，多くの島民は観光客が増加することに賛成している．ただし，今回の意識調査では客層にこだわり，小さな子ども連れや，よい人であれば受け入れたいという意見がみられた．今後，大神島の観光地化は，今回の意識調査の結果を踏まえて，島民の日常生活を乱さない，緩やかで持続可能な方向を目指すべきだと考えている．

最後に，島民が平和に暮らし，また多くの出身者の故郷として，いつまでも自然豊かで穏やかな大神島であって欲しい．

本研究を行うにあたり，突然の訪問にも関わらず，大神島民 27 人の方に調査にご協力いただき深く感謝いたします．島尻氏（大神島の調査開始時の区長）および友利前区長をはじめ多くの島民の方から，調査項目に加え，島の歴史や現状，島の産業，観光客の特徴，小中学生が多く在籍し学校が賑わっていた頃の様子などを含め貴重なお話を聞かせていただき，重ねて御礼申し上げます．最後になりましたが，終始きめ細かなご指導をいただきました琉球大学名誉教授の島袋伸三先生に御礼申し上げます．

(受付　2013 年 4 月 30 日)

(受理　2013 年 6 月 19 日)

注

1）島内のガイドは年金生活者あるいは，別の仕事を兼務しており，ガイドによる収入のみで生活している訳ではない．また，夏季を中心に需要があるが，日によって大きく異なる．一方，島内のガイドだけでは対応が困難な場合は，観光客を送り込んでいる観光会社がガイドのために来島する．大神島民A氏（2008 年 12 月）による．

2）前掲 1）A氏（2008 年 12 月）による．

3）鳩間島民B氏（2012 年 8 月）による．

4）大神島民C氏による（2012 年 8 月）．

5）堀本（2011）によると，仮に架橋される話があった場合，大神島民は否定的な意見がほとんどであった．それは架橋により宮古島から昼夜を問わず見知らぬ人が自由に来島できることによる環境の悪化を懸念しているからである．

6）沖縄の特産である細長く酒の肴としてよく食されている島ラッキョや，ニンニクも島の特産でこれらは主に自家消費用である．

文　献

堀本雅章（2011）：架橋に対する住民意識 ― 沖縄県本部町水納島と宮古島市大神島を比較して ― ，沖縄地理，11，55-63.

堀本雅章（2013）：沖縄県竹富町鳩間島の観光の特色，2012 年度法政大学地理学術大会プログラム，1-2.

森口　豁 (2005) :『子乞い 沖縄孤島の歳月』凱風社 269p.